

岡崎城籠田総門 発掘調査公開中!!

2020
8/19〔月〕
9/6〔金〕
調査は平日のみ。雨天中止。



Fig 1



Fig 3

Fig 1 : 改修前の籠田総門

単一の枡形で、街道入口から右折れした地点に総門が配置されている。

Fig 2 : 改修後の籠田総門と調査区想定位置

万治元年（1658）の焼失後に改修。街道正面に総門が配置され、前後に二つの枡形を組合せた構造に変化した。

Fig 3 : 江戸後期に描かれた籠田総門（内側からみた状態）。

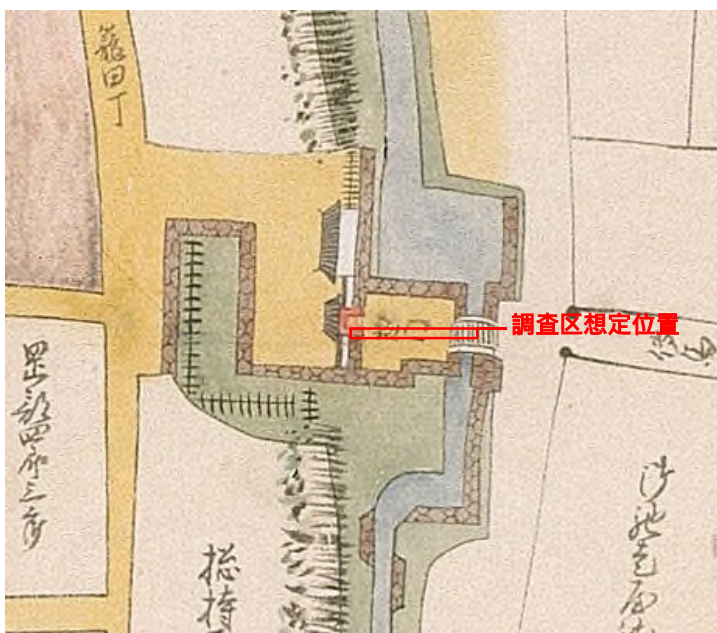


Fig 2

現地説明会 8/31 〔土〕

11:00 / 13:00

現場公開 10:00 ~ 14:00 直接 **会場** へ（裏面参照） 荒天中止（HP 掲載）
岡崎市教育委員会社会教育課岡崎城跡係 TEL : 0564-23-7270



過去の発掘調査関係



岡崎城跡整備計画
石垣マップ等

城郭における^{そうぼり}総堀及び^{そうもん}総門とは？

城のほか城下町一帯も含めて外周を堀や石垣、土塁で囲い込んだ城郭構造を「総構え（そうがまえ）」といいます。この総構えを構成する外堀のことを特に「総堀」といいます。天正 18（1590）年に岡崎城主となった田中吉政が城郭拡張と城下町建設を進め、城下町を「総堀」により取り囲み総構えを構築したとされます。また、東海道も城下の町屋部分に引き入れました。

総堀には東海道の城への出入口として「総門」が設けられました。東側の総門は「籠田総門」、西側の総門は「松葉総門」と呼ばれ、防衛上の出入口として枡形を備えていました。

籠田総門は慶長 14 年（1609）に伝馬町が成立すると、総堀を渡る東の地点は「伝馬口」と呼ばれ、以降の東海道は固定化されます。万治元年（1658）の焼失後、2 つの枡形を組み合わせた構造に改修されました。

消えた総門と発掘調査

総堀及び総門は江戸時代の様々な絵図に描かれていますが、明治時代以降はその機能を失い、その痕跡は徐々に姿を消していきます。最終的には戦後復興の区画整理事業により往時の姿はほとんど見られなくなり、総門の位置すら正確にはわからなくなっていました。岡崎城総構えの出入口である籠田総門の痕跡を発掘調査で明らかにすることを今回の調査の目的としています。

現地説明会（8/31 予定）

現地説明会は調査現場東の広場にて行います（Fig 5 参照）。会場に駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用いただくか、周辺の有料駐車場をご利用ください。

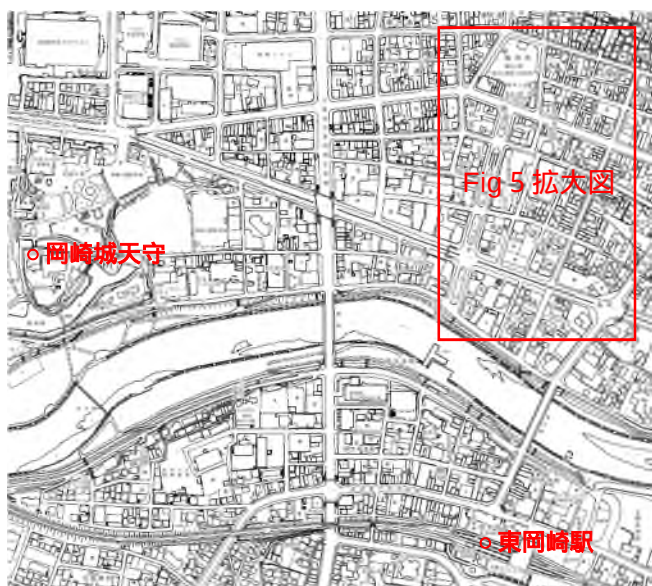


Fig 5 案内図



Fig 4 城郭合わせ図



Fig 6 現地説明会会場